

自治労きようと

発行所・自治労京都府本部 〒604-0867 京都市中京区丸太町通烏丸西入北側N・H・Kビル2F
TEL.075-252-5932・FAX.075-231-4918 発行人・岡本哲也 編集人・森本尚秀
定価 一部10円 本紙の購読料は組合費に含まれています。

4/15・5/1
2025
第895号

ご意見をお寄せください

自治労京都府本部では、組合員のみなさんのご意見を募集しています。組合のこと、機関紙のことなど、たくさんのご意見をお待ちしています。
TEL.075-252-5932 FAX.075-231-4918
E-mail: jichiro@jichiro-kyoto.gr.jp
http://www.jichiro-kyoto.gr.jp/



参院選
京都
選挙区

山本わかこさんの推薦を決定



山本わかこプロフィール

元衆議院議員/1968年生まれ。1991年同志社大学文学部卒業後、京都信用金庫に入社。2001年福山哲郎参議院議員の秘書として京都事務所勤務。衆議院議員(1期)。立憲民主党京都府総支部連合会 副会長。書道教室「遼扇会」主宰。

府本部は4月16日の執行委員会、7月に執行予定の第27回参議院選挙京都選挙区における、立憲民主党の山本わかこさんの推薦を決定した。山

本さんは「京都生まれ、京都育ち。衆議院議員として京都府北部での活動を経て京都のために」とと働きたい」と立候補を決定した。

比例区は自治労組織内の「岸まきこ」、京都選挙区は「山本わかこ」の名前を覚えていただき、各単組・組合員の支援をお願いしたい。



▲松長青年部長を講師に政治学習会を開催

府本部青年部は3月20日、キャンパスプラザ京都にて「青年部政治学習会」を開催。9単組27人が参加した。本部の松長青年部長を講師に、「わたしたちと組合・政治の関係性」をテーマに、その両輪で社会を変えるにはどうすべきかを学んだ。講師はまず、組合活動について説明。「賃金や働き方などの勤務条件を、個人が働き続けるかどうかを決める『基本事項』だ」と述べ、「基本事項を維持・改善するために労働組合の活動が必要。具体的には学習や交流、点検活動を通じ、出てきた職場の課題について『要求、交渉』を」と



▲松長青年部長

青年部が政治学習会

訴え、青年部女性部が主導して勝ち取った全国の事例を紹介した。続いて、政治の役割について説明。「社会のルールや仕組みは政治で決まっている。特に私たち公務員の場合は政治で決定されたことを執行するため、議決されたことがそのまま仕事に影響する。そのため、政治には『無関心でも無関係ではない』と力説。過去の政府主導で行われた給与制度改革や行財政改革を例にあげ、「現場

私たちと政治の関係性は

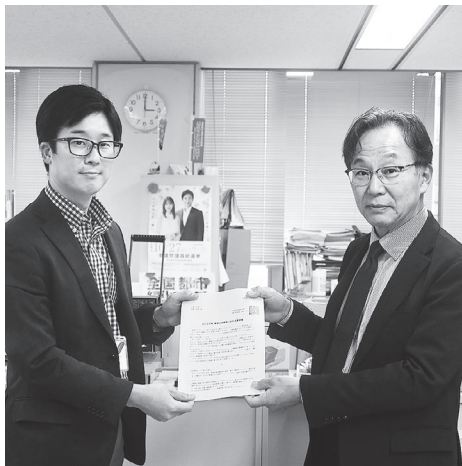
の実態を国会に届けることができるのは自治労の組織内議員しかない」と述べ、今夏に行われる参議院選挙での岸まきこ参議院議員の再選に向けた取り組みの重要性を訴えた。最後に、「自分事とし後も学習、交流を通じ、

とらえるため基礎を学習し、自分も家族も大事にして仕事や労働組合のモチベーションをあげよう。そのためには一人ですら抱え込まず仲間を作ろう」とまとめた。

府本部青年部では、今後

人員確保が最重要課題

府に春闘要求書提出



▲山崎課長に要求書を提出する岡本委員長

府本部は3月24日、京都府自治振興課・山崎課長に西協知事宛ての2025春闘にかかる要求書を提出した。

府本部から69項目の要求内容について主旨を説明し、人員確保を最重要課題と位置づけ、さらに賃金諸手当の改善、長時間労働の是正、会計年度任用職員の労働条件改善、ハラスメント対策など、働きやすい職場環境

職場の現状や課題を共有し、仲間同士のつながりを通じて、働きやすい環境をめざしていく。

第27回参議院全国比例区選挙
自治労組織内参議院議員
岸まきこ
声を力に、一歩前へ



先日、三重県
の鈴鹿サーキットで今シーズン
第3戦目となる
F1日本グラン
プリが開催された▼世界にたった20人しか存在しないF1ドライバーの中
で今回、誰よりも注目を集めたのは唯一の日本人
ドライバーである角田裕
毅(つのだゆうき・24歳)
だ▼今シーズンの開幕から彼が所属した「レッドブル」はレッドブルのセカンドチームで、同じホンダ製のパワーユニットが搭載されてお
り、5年目を迎える今季は2戦を終えて早くもポイントを獲得するなど好調な滑り出しを見せていた▼そんな中、上位チームであるレッドブルへの昇格が3月26日に電撃発表された。レッドブルが開幕から起用していた新人ドライバーがパフォー
マンス不足のため、シーズン途中にもかかわらず、シズンと実績のある角田選手と入れ替えることを決定するという衝撃の展開となった▼念願であったトップチームへの移籍を
実力で掴み取り、しかもその初陣が自身とホンダの母国グランプリという
この最高のシチュエーションに、おっさん半泣きの春。(目出)

岸まきこ参議院議員は4月9日、地方創生デジタル特別委員会、大臣所信に対して質疑に立ち、「地方創生は重要だが、この間の政府の取り組み



マイナカードの課題を質す

は、総体的には失敗だったのでは」と指摘した。理由は、消滅可能性都市論に起因した「少子化対策」という過大な目的が設定されたことにある。

り、国全体で取り組まなければならない政策を地方に転嫁した結果、人口偏在も少子化も加速させている。「政府は地方創生2.0を始動させたが、例えば条件不利地に焦点を絞って、人口減少下でも人々が住み続けられる地域づくりに資する政策こそが必要だ」と訴え、伊東地方創生担当大臣に地方創生関連予算の在り方を考え直すべきと質した。首長経験のある大臣からは取組む意欲ある人を応援したいとの回答があった。

月から始まったマイナカード更新時のシステム連動が整っていない現状を質している。「政府はデジタル化が住民窓口となる自治体に過重な負荷をかけていることを強く指摘した。また今年、マイナカード所持者の更新が本格化するを受け、自治体での窓口対応や混雑緩和対策に係る経費の財政支援を求め、総務省から更新手続の対応において地方自治体の事務が円滑に行われるようしっかりと支援をしていきたい」との答弁を得た。

の春。

